

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|---|--|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 | <input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 今年に入って事業所独自の理念をスタッフ一同で考えた。短時間では良い案が出ないこともあり、文章、単語だけでも良いと言う案で理念のヒントになるもの集め、ホーム長、主任でまとめた。利用者が安心して生活出来ることを中心にまとめた。又、現在地域密着をねがずサービスを提供出来るように努めている。 | ○ 毎年目標を立て日々のケアに活かしていく。 |
| 2 | <input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 事業所独自の理念が無かったので、現在掲げた理念に基づいて取り組んでいる。理念自体最初から難しいものではなく、今までしてきたことを、理念として掲げてみた。理念を通し日々振り返りは実践できている。 | ○ 常に理念に基づいて利用者の思いをくみ取り振り返りが出来るように実践中である。 |
| 3 | <input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | 今年8月の運営推進会議で事業所で決めた理念を述べさせてもらった。ご家族には行事などを通して事業所の理念に理解をいただいている。 | |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 | <input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 回覧板や、手作りおやつなど利用者と一緒に近所に持って行く。又運営推進会議への参加や、野菜、お菓子、惣菜、ウエスなどの差し入れがあったときは、上がってもらい利用者、職員と共におしゃべりをしながらお茶を飲んで雑談を楽しんでもらう関係性が出来てきた。 | ○ 玄関の内外に腰掛を用意し地域の人が立ち寄り休憩しやすい場所を提供していきたい。 |
| 5 | <input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会には加入している。地域の活動については、一斉清掃に事業所として参加した。又、他の福祉事業所などの催し物には、利用者と参加し交流をしている。 | ○ 当ホームの催し物にも参加していただけるようになりたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|---|--|------|---|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 運営推進会議を通して、防災、治安、または独居老人の情報など参加者から多方面への相談口になりつつある。又、他事業所のヘルパー養成研修の実習場所として提供、教員の異業種研修の実習場所としても提供している。 | ○ | 来年からは、養護学校の学生の実習場所として協力することになった。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 職員全体で自己評価を行った。外部評価の結果に対して、職員全体で検討しながら、改善していく。 | | |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 実践できるものはすぐ取りかかっている。出来なかったものに対しては出来ないままではなく、どうしたら出来るようになるか、スタッフ会議などで話し合うようにしている。 | ○ | 運営推進委員会参加者のアドバイスにより地域施設での行事に参加が出来るようになった。 |
| 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 運営推進会議以外では、問題が生じたとき、わからない事例があったときなど行政に電話で相談している。 | | |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 必要なケースがあれば管理者が対応してるが、今までそのようなケースがなかった為、他の職員に説明、勉強会が出来ていない。現在必要な時に支援が出来る体制は万全とは言えない。 | ○ | 施設内研修を検討中である。 |
| 11 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止について研修を受けたスタッフを中心に、施設内研修を実施している。スタッフは研修報告書を提出し、日々の生活に活かしている。スタッフミーティングでそれぞれの意見発表の場を設けている。 | ○ | 施設内研修を検討中である。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|---|------|--|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前に、本人家族には必ず面接と施設見学を徹底している。話が出来る機会を多く持つようにしながら、入退所について理解をしてもらっている。 | | |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 現在は重度化が進み、本人の声としては身体を通してしか聞こえてこない。又、カンファレンスに出来るだけ家族に参加してもらい意見を言いやすく、聞き出せるチャンスにしている。苦情相談担当職員をもうけている。 | ○ | 認知症の利用者の意見を引き出せるような、言葉賭けが出来るよう、個別に相談したり話したりしているが、レベルの違う全職員の資質の向上を目指して施設内研修を図っていく途中である。 |
| 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 月に一度担当者が利用者の近況、これから必要なもの、預かり金の使途など毎月報告している。個人の金銭管理は月末に請求書と共に領収書の添付をしている。 | ○ | 広報紙を作成し、より細かな日常の様子報告を始めた。 |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議で意見を伺う機会を設けている。家族の苦情は面会時誰にでも言えるよう声かけをしている。苦情については担当受付を設け常々対応している。 | | |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議は理事長参加で行いスタッフ一人一人の意見が言いやすいように取り組んでいる。又、スタッフだけで行うミーティングを設け、運営者に伝えられなかったことなどまとめて、運営者に報告、相談に行くようにしている。又、運営についてアンケート調査を実施した。 | ○ | 全職員が自由に考えを口に出せ、強い意見に引っ張られることのないよう、又、多数決ではなく前向きに意見が反映され全体の質の向上に繋がるように試行錯誤中である。 |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 緊急時など必要と思われるときはすぐに連絡を取り対応できるシステム作りをしている。 | | |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 管理者を含め、昨年度から数人の入れ替わりがあった。利用者へのダメージを最小限度にするために新人職員には出来るだけ研修時間を長く持ち、振り返りシートを活用しながら、先輩職員がなるべく一緒に過ごす時間を多く持つようにして、利用者の不安を防ぐように努めている。 | ○ | 新人研修用マニュアルの作成を検討中である。 |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------|--|---|----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 | <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>施設内研修・施設外研修を行っている。又、月に一度スタッフミーティングを行い、問題点など話し合うようにしている。</p> | |
| 20 | <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>橋南のグループホームと連絡を取り合い、又月に一度管理者を含めスタッフ参加で交流会をしながら情報交換をしている。現在進行中である。</p> | |
| 21 | <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p> | <p>仕事に就いての悩みなど事業所独自のアンケートを実施し、又集計した後でミーティングをして話し合いの場を設けている。</p> | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|---|---|------|--|
| 22 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 常に声かけをし気安く話し合えるように心がけている。又、良い点を見つけ感謝の意を伝えている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 利用希望の依頼があると、こちらから訪問あるいは、来所、見学してもらい十分に本人の気持ちをお聞きし、またホームの内容についても十分な説明をさせていただいている。 | ○ | 日帰りまたは宿泊付の体験利用をシステム化し安心して利用できるような取り組みをみたい。 |
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入所されるまでに何度かお会いし、今までのご家族が苦勞されてきた事を聞き共感し、ご家族の立場を理解しどういう方向を望んでおられるのかなど、話される内容から重要なポイントを聞けるように努力している。 | ○ | 今後の支援へ向けて共に相談しあえるような信頼関係を築いていく。 |
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族が希望しておられること、必要としておられることを話の中から適格に把握しグループホーム以外のサービスも紹介しながらもっとも適したサービスを一緒に考えている。 | | |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | サービス開始前に家族と話し合い徐々に慣れて頂けるようゆっくり経過を見ながらケアに充っている。必要に応じお試し利用を受けている | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 本人が出来ること、例えば、洗濯物をたたむなどをともにし、日常生活を出来るだけ普通に過ごしてもらっている。本人の思いや願いを考えながら支えあう関係作りを目指している。 | | |
| | ○本人を共に支えあう家族との関係 | | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----|--|---|------|---|
| 28 | 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 今まで家族の介護の大変さ、苦しみを傾聴し「大所させた」という罪悪感を感じないよう、一緒になって前向きな考えの元に共に支援する関係を築けるように努力している。毎月近況報告も行い状況の共有に努めている。 | ○ | 利用者家族が気軽に話し合える場もっと提供していきたい。 |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 来所時には、居室にてゆっくりお話を頂き職員も懇談に努めている。又、遠方からの面会には本人と一緒にホームの食事をされたり居室で泊まれる方もおられる。 | | |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人が以前住んでいたところにドライブがてらお連れしたりしている。 | ○ | 本人や家族より情報を得て、本人の大切にしてきた親戚や知人とのつながりが途切れないように支援に努めたい。そのため家族の協力と理解を得られるよう努めたい。 |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 楽しく時間が過ごせるように、職員が調整役になりながら、利用者同士の関係が円滑になるように支援している。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|---|---|------|---|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 他施設に移られた方について、入所先への情報提供や入所後の生活様子など状況伺いに家族或いは施設に連絡をとっている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の思い希望に添えるよう、話を聞いたり観察をしながら汲み取るため傍らに寄り添っている。又、一対一で向き合い関わる時間の中で本人の言葉や仕草、表情から把握できるように努めている。 | ○ | 思いを伝えられない人に対して介護側から一方的な判断をしないようにつとめ、又、家族の意見を取り入れていきたい。 |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族や、前ケアマネよりその人の生活歴、生活環境の情報を得て本人との会話、仕草からの情報を職員間でも共有し把握に努めている。 | ○ | 馴染みの生活用品写真など収集し会話にもっと多く取り入れていきたい。 |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 毎日の生活状況が把握できるように表に記録していくことや、個人記録していくことで有する力の発見に努めている。出来るだけ一人一人のペースを理解し、どんな小さな出来事でもその方の行動から感じ取れるように努力している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 新規の方はこれまでの生活状況・本人、家族の希望を元に介護計画を作成している。又、可能な家族にはカンファレンスに参加してもらい、家族、介護者が同じ場で意見を出し合い共通認識を持ちながら介護計画を作成している。 | ○ | ドクター・リハビリ専門職等の参加も考えていきながら、過去の生活状況をもっと詳しく収集していきたい。 |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 期間内で見直しの必要性が生じた場合、参加可能なスタッフでカンファレンスを開き迅速且つ適切な対応が出来るように見直し変更することに努めている。参加出来なかったスタッフには、連絡ノートなどで伝えるようにしている。 | ○ | 連絡ノートに必ず目を通すようになっているが、勤務日の少ない非常勤職員に伝わりにくく、実行に繋がらないこともあるので職員同士で声をかけるようにしている。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|--|---|------|--|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日の様子や気付き等個別記録に記入している。又、記録の方法を都度話し合いよりよい記録のあり方を見直しそれぞれの方の介護計画の確認をチェックしている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 訪問看護ステーションと契約し週に一度の健康チェック、又24時間連絡、相談が可能な体制をとっている。本人、家族の要望に応えられるよう受診、往診等状況に応じて柔軟に対応している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 運営推進会議などに出来るだけ参加して頂き、交流を深めきっかけ作りをしている。 | ○ | 引っ越しをして一年半たちやっと地域との交流が出来つつあるところ。これから行事などにも参加してもらいグループホームまごころの家を知ってもらえる努力をしていきたい。 |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 他事業所での催し物などに参加させてもらっている。訪問理美容サービスも利用している。 | | |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらっている今のところは困難なケースはないが、今後なにかあれば協働の出来る関係はある。 | | |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医は従来からの関係を大切にそのまま継続している。定期的な往診と体調不良時は往診或いは状況によっては受診先の紹介を得ることもあり適切な医療を受けられるように支援している。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----|---|---|------|---|
| 44 | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 精神科医がホームの委託医であり幅広い対応をしてもらっている。 | | |
| 45 | ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 資格を有する看護職員が適格な対応をしている。 | | |
| 46 | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 入院中も積極的に出向き回復状況等の把握に努めている。又、退院後も安定した生活にスムーズに入れるよう支援している。 | | |
| 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 同意書を全員交わしている。早い時期から繰り返し話し合いは行っている。必要性が生じた方には家族、看護師、ドクター共に話し合い方針を共有している。 | ○ | 終末期の迎え方は個々に異なると思われるので、全員について十分な取り扱いを決めることは難しいが可能な範囲で方針をまとめていきたい。 |
| 48 | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 出来ること出来ない事を明確にしかかりつけ医の協力を求め、可能な限りチーム全体で取り組んでいる。利用者の変化に早く気づくように連絡を密に取り合い、検討するように努めている。 | ○ | 終末を実際に体験したわけではなく十分な取り決めは難しいが可能な範囲でもっとしっかりした方針をまとめるように現在資料をまとめつつあるところである。又、先輩グループホームの体験を聞く機会を検討中である。 |
| 49 | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 別の施設の転所にあたり家族とは何度か話し合いを持ち、転所先の施設には、書面・電話などで情報を提供しスムーズな移行により早くなじまれるように努力している。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|---|---|---|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 日々の関わり方についてミーティングしさりげない言葉かけなどプライバシーを損ねない対応に気をつけている。他の家族や訪問者には個人情報は話さない。 | |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している | こちらから常に言葉かけをして、利用者が何を伝えたいのかヒントになる事を考えたり、利用者が関心を持っていることや希望に気づき自分で出来るように支援している。出来ない利用者には表情などでくみ取っている。 | |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの体調に合わせ、その時の気持ちを一番に考え、買い物、散歩等の外出も思いに添えるよう配慮している。こちらが無理強いせず自由に過ごして頂いている。 | ○ 声掛けの中から本人の希望を引き出す努力をし本人の心からの声や思いが引き出せるように声掛けを工夫する。 |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 希望に合わせたカットや毛染めをして頂けるように配慮している。意思表示が出来る方には毎日の衣服をご自分で選んで頂いている。 | ○ 利用者の重度化により、多数の方は馴染みの美容室には行けなくなった。その代わり美容室を兼ね備えたハッピー一号に来てもらい、ホーム内ではなく、車の美容室に移行してもらい、美容室の雰囲気を味わいながらカットなどをしてもらうようになってきた。 |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 旬の食材、新鮮なものを利用者の好みを考えながらメニューを作成している。味付けや調理方法を聞いたり、盛りつけ等手伝って頂き、利用者と職員が同じテーブルを囲んでいる。食器洗い、食器ふきも一緒にしている。 | |
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 一人ひとりの嗜好物を知り馴染みのものになるべく自宅と同じように楽しんで頂いている。夜間入浴が出来る方には、希望される時間に入浴していただいたり、お酒の好きな方には、梅酒など柔らかいアルコールを出して楽しんで頂くこともある。 | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|--|---|------|----------------------------------|
| 56 | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排便、排尿の時間、回数を記録している。便意、尿意の無い利用者の方には時間を確認しながらトイレに案内している。夜間安眠に配慮するが起きておられるときは、声掛けしトイレに案内している。 | | |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 一人ひとり体調を考慮し入浴して頂いている。自立されている利用者の方は夕方入浴して頂くようにしている。 | ○ | 介助の必要な方についても夕方入浴が今後出来る体制をつくりたい。 |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | その時々体調と状況に応じて休息を取り入れている。又、安眠して頂けるように日中の活動を促し生活リズムを整えるようにしている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 一人ひとりの生活歴から、洗濯物たたみ、掃除、食器ふき、洗い、お茶入れ等継続出来るように努めている。又、皆様に楽しめる歌、ボール遊び、塗り絵等利用者の経験や知恵が発揮できるように支援している。 | | |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在一人の利用者だけ所持管理している。月に一度の音楽療法代金などご自分で支払っている。 | | |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天気の良い日は希望、能力に応じて散歩、ドライブ、買い物、喫茶等に出かけている。 | ○ | 食材の買い物には利用者と一緒に掛けている。 |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 天気、本人の体調、希望を考慮し計画を立て積極的に外出している又、家族等相談し資金、外出同行の協力をお願いし実施している。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|--|------|--|
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望に応じ電話をかける支援をしている。手紙の書ける方は、やり取りが途切れることの無いように支援している。読めない方への手紙やはがきは、スタッフが利用者へ伝えるよう代読している。 | ○ | ご家族から来たはがき、手紙に関してはスタッフが代筆して返事を書き出していきたい。 |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | いつでも訪問していただいてもいいようにしてあり自室、居間を使われてもいいようにテーブル、いす等準備をしている。湯茶の接待もしている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 全職員が身体拘束について研修に参加している。常に連携をとり安全に見守り拘束の無いケアに取り組んでいる。 | ○ | 全スタッフが利用者の受ける身体的、精神的弊害について理解できている状態に持っていけるように、定期的に施設内研修として取り組んでいきたい。 |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は玄関には施錠はしていない。しかしセンサーは設置してある。玄関から外へ向かっていかれる場合は、さりげなく声え掛けをし一緒に散歩に出掛ける。 | | |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 利用者のプライバシーに配慮している。職員間で所在の確認をするように常に声掛けをし、利用者がどこにいるのかわかるように心がけている。 | | |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 一人ひとりの状態に応じて危険を防ぐよう心掛けている。特に押しピンやはさみ、ころがるものが落ちないように気をつけている。又衣類のボタンなど、誤って口にはいらないように、とれそうなものは利用者で裁縫の得意な方と一緒に早めに縫い止めることをしている。 | | |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | ヒヤリハットを活用し記録に残している。又、当日勤務しているスタッフとすぐにヒヤリハットの原因を追及し事故防止に努めている。他の職員には後日注意を喚起している。 | ○ | 同じ事故を繰り返さないためにヒヤリハットの活用を意識付けていく |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|--|--|------|--|
| 70 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 対応マニュアルに従い緊急連絡網にて備えは出来ているが応急手当については救命講習修了証は持っているものの定期的に訓練は出来ていない。 | ○ | 定期的実施する。 |
| 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 緊急連絡網を作成している。消防署立ち会いで避難訓練を実施。又マニュアルを各自・リビング・事務所と必ず目につくところに置いてある。 | ○ | 地域の協力を継続して願います。 |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | モニタリングなどケアプランの見直し時期には家族に呼びかけ、出来るだけ参加してもらい、家族の不安・職員の思いなど話し合い、利用者に抑圧感の無い暮らしをどのようにしていったらいいのか話し合うようにしている。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 毎日生活状況の記録をし状況の把握又、気づいた際は管理者に早く報告し対応の方法を協議実施している。内容によって管理者はナースと相談し職員間の対応を共有する。申し送りできちんと伝達に努めている。 | | |
| 74 | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人ずつの服薬内容が一覧にまとめてありいつでも確認可能にしてある。状況の変化の確認には常に敏感に努めている。 | | |
| 75 | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 食事内容や量、水分量等に注意し又散歩等を促し一緒に出掛ける努力をし便秘による不穏や体調不良を引き起こすことがない様に気をつけている。 | ○ | 出来るだけ薬に頼らないで食事、体を動かすことで予防する事をもっと進めていきたい。 |
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後利用者一人ずつに伴って口腔ケアを行っている。自分でできる方には見守りながらさりげなく口腔内を観察し、出来ない方にはお手伝いをしている。又、寝たきりの方にはベッド上で口腔ケアをその方にあった方法を歯科医から指導を受け行っている。 | ○ | 必要性を理解するために口腔ケアの重要性、肺炎予防について施設内研修を継続する。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|---|--|------|--|
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食の食事量・水分量を必要な人は記録し、本人に合っているか注意し確認をしている。毎月の体重測定を行っている。 | | |
| 78 | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 利用者職員とも手洗いを充分に行っている。オスバン、次亜塩素酸を使用。感染症の発生状況を新聞で確認、流行時は特に予防に注意している。感染症についての知識を得るため資料を作り、スタッフ全員に配り勉強してもらっている。 | ○ | 感染症について書類配布だけでなくチームで勉強会をし確認しながら理解していく。 |
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 調理用具洗浄、消毒を行っている。週3回の買い物で新鮮で安全な食材の確保に努めて新鮮なうちに調理をしている。冷蔵庫・冷凍庫の食材の残りの点検を行っている。 | ○ | 保管の清潔確保にいつそう気をつけたい。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 玄関は引き戸で開けやすく、緑が多く一般の家の雰囲気がある。玄関に籐のいす、テーブルを設置しくつろげるようにしている。 | | |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | それぞれの居室には家族との写真を飾り廊下にはタペストリーで明るい雰囲気を出し職員の手作りの壁飾りなどで暖かみを醸し出している。又、季節の花々を生けるように努めている。 | | |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 玄関ホールに長いす、籐のテーブルセット居間にソファを置き横になったり足を伸ばしたりお話をしたり出来る工夫をしている。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|---|--|------|---|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は家族と相談して、今まで使っていた家具や小物を置いている。又カセットテープ(CDプレーヤー)なども配慮している。 | | |
| 84 | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | トイレ(床・便器)は次亜塩素酸使用。時には消臭スプレーを使用し注意を払っている。温度に関してはエアコンと窓の開閉で調節し暑がりの方、寒がりの方に応じて行っている。居室には温度計を置き都度温度調節に気をつけている。 | ○ | 本人の感覚だけに頼ることなく、利用者の様子を見ながら外気との温度湿度差を確認して調整していく。 |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 全フラットにして廊下には手すり、トイレ浴室には介助バーを取り付け安全に且つ自立の部分を大切にしてもらうようにしている。 | | |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 声かけを常に意識し個人として尊重しながら、それぞれの方の行動パターンを理解し、混乱されないように利用者の気持ちを見極めて対応している。 | | |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 庭にひまわり、梅、その他沢山の植樹をし、花瓶に生けて頂いたり梅の実を収穫し梅酒、梅干しに加工したりベランダで洗濯物を干したりまたは、お茶の時間を楽しんだりしている。 | | |

V. サービスの成果に関する項目

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|--|-----------------------|--------------|
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | <input type="radio"/> | ②利用者の2/3くらいの |
| | | <input type="radio"/> | ③利用者の1/3くらいの |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | <input type="radio"/> | ①毎日ある |
| | | <input type="radio"/> | ②数日に1回程度ある |
| | | <input type="radio"/> | ③たまにある |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | <input type="radio"/> | ②利用者の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③利用者の1/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | <input type="radio"/> | ②利用者の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③利用者の1/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | <input type="radio"/> | ②利用者の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③利用者の1/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | <input type="radio"/> | ②利用者の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③利用者の1/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | <input type="radio"/> | ②利用者の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③利用者の1/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての家族と |
| | | <input type="radio"/> | ②家族の2/3くらいと |
| | | <input type="radio"/> | ③家族の1/3くらいと |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどできていない |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|---|----------------------------------|--------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | <input type="radio"/> | ①ほぼ毎日のように |
| | | <input checked="" type="radio"/> | ②数日に1回程度 |
| | | <input type="radio"/> | ③たまに |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | <input checked="" type="radio"/> | ①大いに増えている |
| | | <input type="radio"/> | ②少しずつ増えている |
| | | <input type="radio"/> | ③あまり増えていない |
| | | <input type="radio"/> | ④全くいない |
| 98 | 職員は、生き活きと働けている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての職員が |
| | | <input type="radio"/> | ②職員の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③職員の1/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | <input checked="" type="radio"/> | ②利用者の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③利用者の1/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | <input checked="" type="radio"/> | ②家族等の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③家族等の1/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

スタッフ会議、職員会議又はカンファレンスを度々開き、日々職員同士の介護に対する気持ちを確かめ合い、利用者に対して受容的な態度で接する事を心がけている。最近では地域との繋がりを大事に考え、七夕会や敬老会への招待、研修生の受け入れ他のグループホームとの交流などを通して、互いの信頼関係を深めつつある。又、食事に対してもこだわりをもち、天然だしを使用し、30品目を毎日摂るように心がけている。スタッフは全員が「利用者は自分の家族。ホームの主役」という思いで毎日明るいまごころのある支援をしている。